さかわ町議会

Vol.101 2025.2.1
12月定例会号
発行 高知県佐川町議会

今回の表紙：えびす祭り

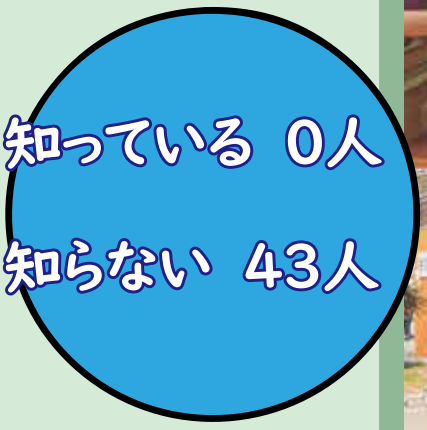
特集「令和７年 二十歳の集い」.....P３
１２月定例会：議案・補正予算.....P４
１２月定例会：一般質問に８人.....P１０
特集「佐川高校生とワークショップ」...P２０
地域でがんばる「加茂の里づくり会」さん...P２２

43名の出席者に

にてアンケートを実施しました。

Q2. 佐川町議会議員が何人いるか知っていますか？

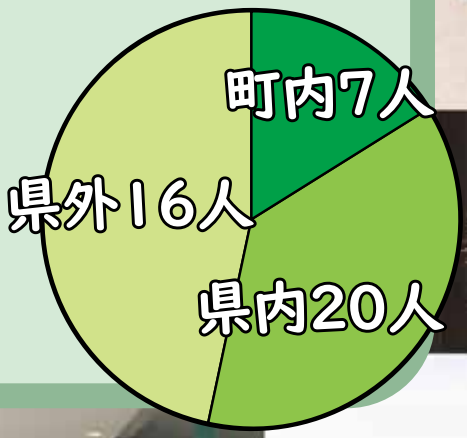
知らないと答えた人の中で
「20人」と予想した方が最も多く
「50人」と答えた方も。



A. 現在は１４名です。
※令和７年の改選後
１３名となります。

Q3. 将来何処で暮らしたいですか？

昨年同様、
町内・県内という答えは
女性の方が多かったです。
「町内で暮らしたいが、
仕事がないので、県外へ出る」
という声もありました。

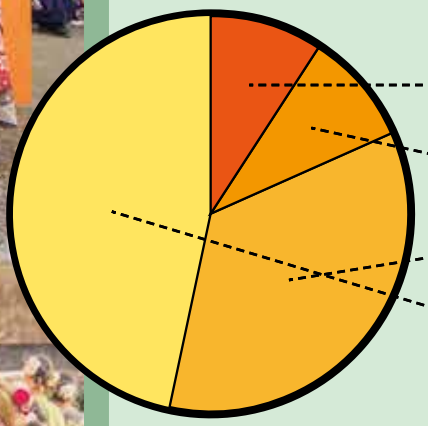


祝・二十歳の集い

昨年に引き続き、令和７年

佐川町二十歳の集い

Q1. 本誌 佐川町議会だよりを読んだことがありますか？



- よく読んでいる　４人
- 読んだことはある　４人
- 読んでいない　１５人
- 見たこともない　２０人

本年１月１２日桜座で二十歳のつどいが開催されました。佐川町で二十歳を迎えた方は、１３２名です。式典に参列された８７名のうち、４３名に、昨年に続いて、議会についてアンケートを行いました。聞き取りの結果は、議会として厳しい状況です。

二十歳を迎えた皆さんが思い描く未来に、生まれ育った佐川町がどのように映っているのか。また、若い世代へ議会の役割や活動に関心を高めていく接点が、もっと必要だと感じました。

一般会計　１２月補正予算

7,634万4千円の増額補正を可決

１２月定例会は、１２月６日から１３日までの会期で開かれました。

報告１件、承認案１件、諮問２件、同意案２件、令和６年度の補正予算をはじめ、条例改正、契約締結など、議案１６件を審議し、採決の結果、全件を可決しました。

令和６年度12月補正予算

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		7,262万9千円	95億4,750万9千円
特別会計	介護保険	371万5千円	19億727万1千円

12月定例会で決まりました

「法律」に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正

マイナンバーカードと健康保険証の一体化に係るマイナンバー法等の一部改正法の施行により、令和６年12月２日から健康保険証が廃止になるため、必要な改正を行うもの。

佐川町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

令和６年１月25日に「指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令」が公布されたことに伴い、関係条例の改正を行うもの。

佐川町農業集落排水施設の管理に関する条例の一部改正

施設使用料を佐川町上下水道運営委員会の答申内容に基づき、改正を行うもの。

令和７年４月１日施行

使用料

	改定後
1世帯当たり	1千600円 ↓ 2千円
1人当たり	500円 ↓ 600円

諮問

人権擁護委員

細木　美稲　氏
佐川町瑞応275番地

永田　美和　氏
佐川町西組1024番地8

人事

固定資産評価審査委員

岡本　直美　氏
佐川町西組587番地1

藤本　尊史　氏
佐川町東組1860番地1

12月補正 PickUp ここに注目!

障害者自立支援事業 1千164万1千円

令和6年報酬改定による単価増に伴う障害福祉サービス費の増額

障害児通所等給付費事業 885万円

令和6年報酬改定による単価増に伴う障害児通所等サービス費の増額

基盤整備事業 275万3千円

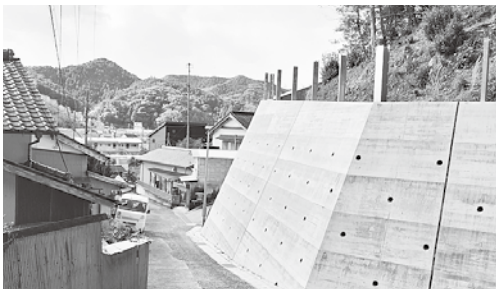
佐川土地改良区設立初期費用の増による土地改良区運営交付金の増額

地方道路交付金 1800万円

町道立野線道路改良工事にかかる詳細設計委託料を追加計上

急傾斜地崩壊対策事業（県工事負担金事業） 671万円

県営工事の事業費増額に伴う補正



加茂地区町営住宅整備事業 2千100万円

加茂地区へ町営住宅及び分譲地を整備するため、用地測量・造成設計委託料を計上（地域振興策）

10～13区画の造成、町営住宅は3棟6世帯の規模を予定している。

定例会以外での活動

ブラジル使節団と交流

11月上旬ブラジル下院議員の西森ルイス弘志氏とブラジル・パラナ州アサイ市日本人会の方々が佐川町へ訪問していただきました。

西森ルイス弘志議員

西森氏は佐川町にルーツがあり、幼少期に一度訪れた町内を懐かしみながら視察されました。

今回の訪問では、今後の交流について意見交換を行いました。

議会の学校視察

議会として昨年度の佐川中学校に続いて、今年度は10月28日に斗賀野小学校を訪問しました。

全学年の授業参観では、班に分かれて発表意見をまとめたり、先生の質問に多数の手が挙がったり、体育館ではステージから下のマットに前転で下りたり、子どもたちが生き生きと学ぶ姿が見られました。

また今年度4月から全介護の1年生の入学を受け入れたことにより、トイレや渡り廊下など校舎内のバリアフリー化や今後の計画などの説明を受けました。

多目的教室に移り、子どもたちに評判が高い学校給食の試食を行い、管理栄養士から、地元食材の確保、アレルギー食対応など、毎日1千食を超える給食提供の実情を伺いました。

試食後は、学校長から子どもたちの生活・学習状況の説明を受け、自分たちでサカワークの地域探求を続けているグループがいること、家庭と学校の連携で子どもたちが中学校に進学した後も落ち着いて過ごしていることなどの報告を受けました。

令和6年度 一般会計補正予算の質疑

問 西森議員 佐川駅前ビルの解体に伴う損害賠償金31万3千円の内容、支払い先、アスベスト処理の経過の説明を求める。
看板撤去委託料84万7千円の内容について説明を求める。

片岡総務課長 駅前ビル解体に伴う、周辺の家屋2戸の外壁損害20カ所弱の修繕補償費である。
使用されていたアスベストの処理は、県と保健所の立ち合いのもとで適正に行い、問題はない。

岡田まちづくり推進課長 国道沿いの上郷三叉路の看板を借用し、県事業観光博覧会に伴う看板ハナサクサカワを設置した。
事業終了に伴い、その撤去と借用看板を元に戻す費用だ。

問 下川議員 農林振興費2千417万6千円の減額理由の説明を求める。
加茂地区住宅団地造成測量設計委託料2千100万円について、工事の予定工期の説明を求める。

田村副町長 地域振興策の一環として、加茂地区で子どもや若者が将来にわたって安心し、誇りをもって暮らし続けられる環境整備をするもので、加茂地区の分譲地の造成と、町営住宅を整備する。
R9年に造成地の分譲を開始し、町営住宅はR10年4月入居予定ですすめる。

岡田まちづくり推進課長 減額は、地域おこし協力隊の年度途中の退任や、年度当初の未採用などにより、当初予定していた人員不足によるものである。

議案第78号 佐川町農業集落排水施設の管理に関する条例の一部改正

問 橋元議員 収益的収入の国庫補助金575万9千円の委託内容の説明を求める。
R5年度に繰り入れた農業集落排水事業基金5千700万円の目的と管理の説明と、経費回収率の算定費目の説明を求める。
建設に関わる町債の未償還額の残額と返済計画の説明を求める。また使用料の値上げは、R7年度、12年度と改定するのか。

吉野建設課長 汚水処理対象人口の変化、維持管理の状況、処理区域全体の状況を多角的に捉え、施設の規模、処理方式の適正化、省エネ技術、遠方監視システムの導入で、今後、施設の持続的な経営を図る計画を策定する委託料だ。
R5年度末の現金預金残高約5千674万円のうち、3千万円を定期預金に、残額を運転資金として普通預金にしている。
今後建設改良事業や企業債の償還等不足額の補填財源として使用見込みだ。
経費回収率の算定費目の使用等収入は人口減少率を毎年1%と仮定した。汚水処理費は施設の光熱水費、修繕費、維持管理委託料、職員給与費で、毎年3%の増額を見込んだ。
R5年度末の未償還額は、1億4千19万円。建設改良費の財源に充てた企業債はR19年度に償還を終了する。地方公営企業法の運用費用に充てた企業債は、借入年度の翌年度から10年間で返還する。
この償還元利金に相当する額は、すべて一般会計から繰り入れていく予定。
改正案はR7年改定分のみだ。答申の中で、経費回収率全国平均57%を目標にするなら、R12年度に再度改定が必要と試算した。

選択的夫婦別姓制度の法制化を求める意見書（抜粋）

1996年2月の法制審議会が選択的夫婦別姓制度の導入を含む民法改正を答申して以来、約28年が経過してもなお具体的な改正の見通しが立っていない状況を踏まえ、早期の法整備を求める。

1. 選択的夫婦別姓制度の審議を早急に行い、実現することを求める。

総務文教常任委員会内での主な意見

①通称（旧姓）の拡大使用では限界があり、仕事上や海外渡航時のパスポート・ビザ申請などで不都合が生じるため、夫婦別姓制度の導入を望む事例があるという意見も示された。

②一方で、夫婦別姓のもとで子どもの姓をどのように扱うかは慎重に検討すべきだという指摘もあった。世界各国の制度を参考にし、丁寧に議論を進める必要がある。

③現行の戸籍制度は夫婦同姓を前提としているため、大幅な変更にともなうコストや事務手続きへの懸念が示された。

委員会の総論としては選択的夫婦別姓を支持する意見が大勢を占めた。細部の制度設計においては課題があるものの、それらを精査するためにもまずは導入を前提とした議論を開始すべきとの結論に至った。

【意見書提出までの主な流れ】
陳情書受理→議会運営委員会より総務文教常任委員会に付託→総務文教常任委員会で採択→委員長から議会に報告→議会で意見書を採択→議会として意見書を提出。

議員報酬引き上げについての報告

R4年12月の定例会において、全議員で構成する「議員定数及び議員報酬に関する調査特別委員会」が設置された。

町議会は、町民の声を町政に反映し、議決や行政監視などの重要な役割を担っているが、地方分権が進む中でその使命と責任が一層重くなっている。

そこで、議会改革の一環として、適正な議員定数と若い世代も参加しやすい議員報酬の在り方を調査・研究・検討するため、本委員会を立ち上げた。

議会懇談会での意見

R5年5月に議会懇談会を開き、町民から「議員報酬が少ない。これでは若手が育っていかないのではないか」などの意見や「議員活動が見えない。何をしているのか分からない」という厳しい意見を含む様々な声が寄せられた。

調査特別委員会での審議

その後、R5年9月からR6年3月にかけて複数回委員会を開催し、検討を重ねた。人口減少や高齢化、低額な報酬の影響などで議員へのなり手が不足する全国的な課題を背景に、「4年に1回の選挙」「公的年金・健康保険なし」「退職金なし」といった実情が若い世代にとって大きなハードルになっていることも確認した。

委員会では、全国町村議会議長会が提案する算定方式（実際の議員活動量から報酬額を導く）と、これまでの要望額を参考に、県内同規模自治体の水準も比較した。最終的に月額27万円が「充実した議員活動に必要な最低限の報酬額」として妥当であると結論づけた。

また、改正を周知する時間が必要であることから、次回一般選挙が予定されるR7年度の4月に改正を行うよう要望すると決定した。

特別職報酬等審議会での審議

民間選出による「特別職報酬等審議会」において委員5名による要望書等の審議が行われ、その結果として報酬額を23万円に最終決定した。それを受けて町長が議案として議会へ提出し、議会で賛成多数により議決された。

おわりに

最後に、本委員会は、議員定数と報酬の見直しはあくまで手段であり、議会の活性化や住民からの信頼向上が最大の目的であると位置づけている。

住民意見を真摯に受け止め、議員一同が活動をより充実させていくことが、今後の責務であると結んでいる。

【まとめ】
令和7年4月より、
議員報酬は月額23万円に
議員定数は次回選挙から14名から13名へ1名定数減

議員各位の意思表明

賛否表（令和６年１２月定例会）　　○：賛成　　●：反対　　－：議長　　欠：欠席

	齋藤光	岡林哲司	山本和輝	田村幸生	橋元陽一	宮﨑知恵子	西森勝仁	下川芳樹	坂本玲子	森正彦	松浦隆起	岡村統正	永田耕朗	藤原健祐
佐川町固定資産評価審査委員会委員の選任について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町固定資産評価審査委員会委員の選任について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
令和６年度佐川町一般会計補正予算（第５号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
令和６年度佐川町介護保険特別会計補正予算（第３号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町議会議員の議員報酬及び期末手当並びに費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	－	○	○	○
行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町農業集落排水施設の管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	－	○	○	○
令和６年度佐川町一般会計補正予算（第６号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
令和６年度佐川町国民健康保険特別会計補正予算（第３号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
令和６年度佐川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
令和６年度佐川町介護保険特別会計補正予算（第４号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
令和６年度佐川町農業集落排水事業会計補正予算（第１号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
令和６年度佐川町水道事業会計補正予算（第２号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町病院事業管理者の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町議会会議規則の一部を改正する規則の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
佐川町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○
「選択的夫婦別姓制度」の法制化を求める意見書	○	●	●	○	○	●	●	○	○	○	－	●	●	○

活動報告

交流と物流の道　国道494号線

「佐川～吾桑バイパス」工事着々

国道494号佐川バイパスの現地視察研修を10月17日に実施した。

最初に作業現場を望みながら、中央西土木事務所越知事務所の担当者から路線概要の資料説明を受けた。

資料では、「このバイパスの整備により、高知県の中西部域、さらには西瀬戸自動車道関連地域との物流や交流を活性化させ、地域振興の発展を促す効果が期待される」と解説している。

視察は、斗賀野トンネルを須崎市側へ抜けてすぐ右側にある切土・地山補強土工現場から始まった。ここでは、新道の分岐工事に着手する前の段階の補強工事だとの話があった。

引き続いて、橋台基礎工の現場及び須崎市側トンネルへの取り付け工事現場を視察し工事の進捗状況の説明を受けた。

このバイパスは住民の期待がとても高く、完成が待ち望まれている。

令和7年6月定例会から議会配信スタート

議会では議場システムのデジタル化の工事を進めている。

今まで議会の傍聴は議場のみだったが、R7年6月定例会からは議会配信により、自宅のパソコンやスマホなどで視聴ができるようになる。

また、議会中継は庁舎1階ロビーのテレビで見ていただけるほか、各地区の集落活動センターや夢まちランドと町立図書館「さくと」などで視聴でき、インターネット環境がない方にも見ていただくことが可能になる。

住民に開かれた議会を実現するため、議会配信や議会資料のデジタル化をさらに進め、議会活動や町政に対する住民の理解が深められるように、情報発信に取り組む。

※3月定例会でテスト配信を予定

西森　勝仁　議員

問 今こそ農業を助けるとき

答 積極的に対応する

問　今、日本の食料自給率は38％。国民の1/10が住む東京はたったの0.47％。江藤農水大臣が言うように大災害などコトが起これば国民は必ず飢える。
　このため、農水省は必要な予算を確保するとのことだし、また、農業振興に使える交付金も倍増した。
　しかし、日本は借金大国。こうした手厚い予算が組めるのも最後かも知れないが、今こそ、高値で取引される佐川米のブランド化を始め農業振興にテコ入れをし、農家を助けなければもう助ける時はないと思うがどうか。

下八川産業振興課長
　農業振興は食料供給だけではなく、佐川の農村環境を維持する基本でもあり、あらゆる施策を検討する。

片岡町長
　農業振興や後継者育成は重要な課題と認識しており積極的に対応する。

稲作経営は厳しい

問 どうする切れた防犯灯

答 スピード感を持って対応する

問　現在の防犯灯は、H28年度から一斉にLEDに取替え、当時は、20年位もつと言われていたが10年足らずで切れ始めている。
　一灯2万5千円程度かかるため自治会では対応しかねているし、役場に予算がなければ夜は真暗で、住民は不安がっている。
　事件や事故が起きてからでは遅いがどうするのか。

片岡総務課長
　防犯灯切が激増し、一時予算対応できなくなったが、今後は、こうした事が起こらないようにする。

片岡町長
　自治会に迷惑をかけないようスピード感をもって予算確保につとめる。

安心・安全なまちづくりに重要

問 いったいどうなっているヘリポート

答 速やかに着工

問　ドクターヘリのヘリポートは、二転三転して一向にラチがあかない。
　今まで、このヘリポートが霧生関にあったお陰で、13分位で医療センターまで運んでもらえ、多くの命が助かっているが、今は道の駅になっていて使えない。
　一体、どうなっているのか。

片岡総務課長
　現在、消防署やパイロットなどと6カ所の調査を行い、1カ所に絞り込んでいる。
　今後は、地元説明会や必要な手続を行い速やかに着工したい。

急がれるヘリポート建設

問 介護事業者の支援を

答 検討する

坂本　玲子　議員

問　高齢になっても豊かに生きるためには、介護サービスを充実させ、それを利用する方もそこで働く方も幸せになれる仕組みが必要だ。
　介護報酬引き下げに伴う減収で厳しい運営を行っている事業者を支援すべきだ。また介護人材が不足している。
　ヘルパーの研修を町が責任を持って行うべきだ。
　更には物価高騰に伴う事業者の運営危機を救うため支援を行うことはできないか。

岡崎健康福祉課長
　介護報酬の引き下げ額分は給付費給付金として来年度予算要求している。また人材確保を目的とした介護職員初任者研修を町が実施する予定。
　長引く物価高騰対策として、国の地方創生臨時交付金を活用して事業者の支援ができないか検討する。

問 教育委員会主導で夏期学校プール開放を

答 協議をしてみる

問　今年度夏休み期間中、学校のプール開放は1校のみだと聞いている。
　子どもの将来を考えたときに多くの経験が必要だ。地元でいつも通っている学校なら行くことができる子どもも多いと思う。
　教育委員会主導でPTAと話し合い、どうすれば開放できるか考えて頂きたい。
　また泳ぎたい子が自由に泳げる場を提供し、子どもたちが育つ環境を整えるため町民プールの子どもの利用料無料化を。

濵田教育長
　プール開放については、運営主体である各PTAに働きかけてみる。

片岡町長
　町民プール利用料無料化についてはまだ検討していないが教育委員会と協議をしていく。

プールは子どもの成長にとても大切

問 おもちゃ美術館の子どもの入館料無料化を

答 協議していく

問　おもちゃ美術館が開館してから1年以上が経過した。予想を大きく上回る利用者数で収支も安定している。おもちゃ美術館の町内子どもの利用は年間約2千人。40万円あれば無料にできる。来年度からの無料化を。
　又、障がい児者の入館料は無料になっているが、その介助者一人も無料にすべきだ。

片岡町長
　子育て支援に力を入れている佐川町としては子どもの無料化は必要であると考えている。
　今後はその影響などを調査し協議をしっかりしていきたい。

下八川産業振興課長
　介助者の無料化は運営状況等も踏まえて考えていきたい。

無料化を協議

橋元　陽一　議員

問 町内の子どもの不登校改善の変化は

答 明らかに低下傾向にある

問　不登校が改善していると報告を受けた。どのような変化があるのか。
　町として18歳から27歳の青年のひきこもり対策について説明を求める。
　学校給食（1千食余）のアレルギー対応の現状と、食問題への町民への啓蒙活動の検討を求める。

濵田教育長
　子どもたちをめぐる状況は厳しさを増している。一方、町内中学生の不登校発生率は着実に改善している。
　ひきこもりは、9年間の義務教育の成果の指標として、27歳までを設定。健康福祉課と連携し、教育支援センターすまいるーむで支援している。
　学校給食でのアレルギー対応食は、H25年度17名、H30年度25名、R6年度31名と増加。給食センター、学校、保護者で連携を密にして、対応している。食生活の大切さは就学前の検診、PTA総会で話している。

岡崎健康福祉課長
　ひきこもりの相談を受けたとき、保健所、教育委員会、民生委員などと連携して支援している。
　食の啓蒙活動は、食生活改善推進協議会が保育園、小中学校を訪問して親子理教室、講話などの広報活動を進めている。

子どもの健やかな成長を

問 佐川町の人口動態について社会増減の分析を

答 来年度の国勢調査で検討したい

問　人口動態では1980年代から10代20代の転出が突出するが、他の年代は横ばいだ。
　2018年度の社会増減を見ると、高知市や関東、関西などへの動きは転出352人、転入386人と、ほぼ同数だ。社会増減の分析で、佐川町まちづくりの未来を描けないか。
　第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略「基本目標1　地産外商での仕事づくり」での数値目標の成果と特徴について説明を求める。

岡田まちづくり推進課長
　町内人口の社会増減は、進学や就職年代の転出が突出するが、他の年代の増減は見られない。来年度の国勢調査で確認したい。
　観光客の入込数は、R4年度は約4万5千人、R5年度はらんまん放送開始、道の駅やおもちゃ美術館オープンなどで20万人を超えた。R6年度は11万人を超える数値だ。

下八川産業振興課長
　R5年度の「基本目標1」では、ニラやトマトの基幹作物年間産出量は達成したが、雪害を受けたイチゴや価格下落したショウガでは達成できていない。イチゴハウス再建や新規就農者への支援、ショウガ単価の回復で上向く見通しだ。
　間伐面積のエリア拡大、農林商工観光の新規就業者では、都心部、関東圏、関西圏などへ引き続き積極的な募集が必要だ。

2018年度佐川町転出入先の状況

地　域	転出(人)	転入(人)
関　東	28	29
関　西	23	26
四　国	27	29
県外その他	47	32
高知市	119	91
越知町	21	46
日高村	5	15
土佐市	11	13
須崎市	11	19
県内その他	62	86
合計	352	386

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略資料より

その他の質問
・新産廃施設建設と地域振興策の進捗状況について

下川　芳樹　議員

問 年収の壁問題、町税収へ影響と対応

問　年収の壁問題、178万円まで引き上げたら町の税収への影響は。町税収の減少分を、国に対しどのように対応するのか。税改正後の事務作業に対応できる人員配置はどうか。

答 地方の減収分、国が恒久的に補填すべき

真辺住民課長　現行103万円から178万円に引き上げると、住民税は約1億8千万円の減額になる。

片岡町長　地方の減収分は国が恒久的に補填するべきだと考える。他の自治体と連携し国に要請していく考えである。人員体制については、各課局のバランスを考えて対応していきたい。

問 町のマイナ保険証の登録、利用状況は

問　12月2日より新制度に移行した、町のマイナ保険証の登録状況及び利用状況、マイナ保険証に関するメリットは。
　利用してない人への資格確認書の期限について問う。

答 9月時点で国、県の平均を上回っている

真辺住民課長　町で把握できる国民健康保険と、後期高齢者医療保険のR6年9月時点の状況は、国保加入者中63.4％が登録、利用状況は17・51％。後期加入者中61.2％が登録、14・42％が利用している。国保、後期ともに国、県の平均を上回っている。
　マイナ保険証の利用で、より良い医療の受診や制度申請が不要となるなどのメリットがある。
　資格確認書の仕組み自体には有効期限を設けないとしているが、保険機関により1年から2年、最長5年の設定もあると聞いている。

どうなる保険証

問 来年の選挙に向けて、投票率向上対策

問　投票率向上の取り組みについては、これまで繰り返して質問した。来年10月には町長、町議の選挙が行われる。町民にとって最も身近な選挙、より多くの投票を期待したい。
　そこで投票率向上対策会議の発足を求める。

答 協議する場が必要、対策会議を進めていく

片岡総務課長　R7年度大きな選挙を控えており、前回の対策会議から3年半を経過している。投票率向上について協議する場が必要であると、事務局として考えている。他の意見を聞くことで自分たちにできない、気づかないことがある。対策会議を何とか進めていく。

投票率の向上を

その他の質問
・佐川町における教員不足の問題や課題について

宮崎　知恵子　議員

問 参加型教育で政治への関心を高め投票意識の向上を

答 ふるさと教育を充実させる

問　佐川中学校研究発表会で裁判員制度の授業があった。裁判員になりきり自分だったらどう考えるかを学ばせて答えを導き出す教育は、じつに生徒たちのモチベーションが上がる興味深い授業だった。こうした参加型授業を通して政治への関心を高め投票意識向上につなげてはどうか。

濵田教育長

今後小学校高学年から中学校にかけ、社会科の公民の分野で地方自治の意義や仕組み等の指導を充実させると共に、副教材サカワークとサカワークデジタルを改訂し防災教育、北見市等での開拓者精神、平和について学ぶ、ふるさと教育を一層充実させていく。

これにより主体的に地方自治に参加する気風が盛んとなり、志を持つ人材が育ち、その結果、若年層の投票率が向上するものと考える。

志をもつ若者が育つ

問 同窓会への補助金について

答 支援を進めたい

問　人口減少や若者の都心への流出で、地元に若者が帰ってくるのを応援したい気持ちは重々承知をしているが、住民の意見も相まって決めて頂きたい。

現在、政府では際限なく補助金政策を続け、2024年8月時点で財源赤字は1千3百兆円、1人当たり1千万円の借金となり、将来の世代にツケを残すことになる。

補助金助成のあり方に対して、費用対効果を厳しく見ていく必要があると思う。

岡田まちづくり推進課長

令和6年高知県中山間地域再興ビジョンに基づき、若者人口の定着・増加、結婚数の増加、出生数の増加、3つの観点から人口減少対策を強化する取り組みの1つとして、町は若者を対象に同窓会支援を進めたいと考えている。

片岡町長

補助金について、町が事業に取り組む対象となる補助金があれば、交付を受けるのは当然必要と考えている。

私はすべてを国に任せるという考え方に異議を唱えたいと思うが、自助の精神でまちづくりが進むよう考えるが、考えを問う。

問 海外との交流促進を

答 交流できるか見極める

問　佐川は海外都市と姉妹交流をしておらず、高知県で12の県及び市町村が21件提携している。

佐川町はブラジル移民の父・水野龍の出身地で、今回ブラジルから西森ルイス下院議員を始め訪問団の皆様が来町され、貴重な交流となった。

ブラジルという国は、日本からは地球の裏側に位置する、世界から注目度が高いグローバルサウスと呼ばれる地域で、2050年までに名目GDPが中国やアメリカを抜くと言われている。世界人口の3分の2を占めるグローバルサウスとの交流を持つことは非常によいと考えるが。

片岡町長

海外との交流となると様々な困難もあると思うが、今回を機縁に今後どんな交流ができるかしっかりと見極めたい。

ブラジル訪問団を歓迎

齋藤　光　議員

問 行政デジタル化の現状は?

問　デジタル化が進めば町民が行う様々な手続き申請などは、オンラインで申請が可能になり、平日に仕事を休んで役場に行くこともなくなる。
　令和7年度には、多くの書類が押印廃止とのことだが、進捗状況を含め、現状はどのような状況か?
　また役場内での手数料の支払いや、各種税金の支払いを現金以外での支払い方法を導入するキャッシュレス決済の進捗状況は?

答 全庁横断的に連携を取り進めたい

片岡総務課長
　押印見直しについて全職員協力のもと、取り組みを進めてきた。
　この見直しでは、法人を含む、住民から提出される申請や届け出、及び行政内部手続きに係る押印を見直しの対象として取り組んだ。
　その結果、現状ほとんどの文書は押印する必要がなくなっている。
　キャッシュレス決済導入に向けては課題意識を持って、調査研究や情報収集しているが、現時点では町の取り組みとして、何か具体的にご報告ができるような進捗がないのが実情となっている。

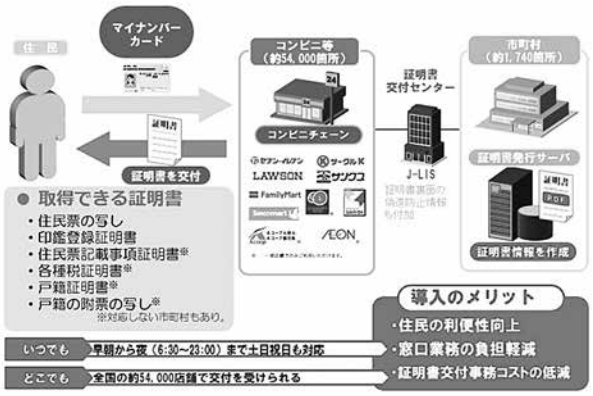
問 教員不足の現状にどう対応していくのか?

答 業務改善などで負担や不安を軽減していく

問　来年度の高知県教員採用試験を行ったところ今年も大量の辞退者が出たとのことだが、教員不足の現状と課題はどうか?
　また、教員不足に対して、どのような対応をしていくか?

濵田教育長
　現状、全国的な教員の高齢化、大量退職に伴い教員不足が数年来続いている。中でも高知県は一層深刻である。
　ここ数年、大量退職に伴い大量に採用する必要が生じてきており、今年採用試験で合格通知を出したものが小学校で最多の280名となり、その中で7割を超える204名が辞退をしたとのことだ。
　年度途中で教員に欠員が出た場合の法的に必要のある代替についても臨時教員の人員不足で、配置できないという状況が起きている。
　県教委が欠員補充をできずに、町教委が臨時教員を探している現状である。
　これらの状況の中でどのように不登校予防、学力向上、ふるさと教育に取り組み、成果を維持し、さらに充実させていくのかが大きな課題となっている。
　ICT機器の導入による校務の能率化、特別支援教育支援員や教員業務支援員、図書支援員、ICT支援員など、教育活動を支える人員の配置、若年教職員の増加への対応を想定している。具体的には保護者や地域への情報提供、家庭訪問、保護者の理解と協力をいただくための具体的な取り組みと配慮すべき内容の把握。あってはならないがハラスメント等があったときの対応などに言及するマニュアルの策定をすすめる。
　部活動への地域からの支援の模索、新転入者研修など教職員研修の充実、などに取り組んでいく。

コンビニ交付サービスのイメージ



2024年12月18日からコンビニで各種証明書を取得できるようになった。

子どもに寄り添って

岡林　哲司　議員

問 訪問介護報酬改定について前回質問以降の動きは

答 調査をし、減収分の給付と介護人材育成の計画をしている

問 介護保険事業の訪問介護事業全体の規模の確認、前回質問以降の動きを伺う。
また今後の人材育成や国・県の報酬改定への対応について、町の方針は。

岡﨑健康福祉課長
介護保険事業の訪問介護事業全体の規模は約1億4千万円、9月以降、事業所と意見交換を行い、経営状況を調査した。
それに伴い、令和7年度予算で介護報酬改定での減収分ベースの給付金を設定、人材育成事業として一般町民向けの初任者研修の無料実施を予定している。報酬改定の影響も注視し、県や国と連携しながら事業者を支援する体制を整える。

介護難民をうまないように

問 道の駅の経営状況と今後の振興計画について

答 現時点で黒字、EV 車充電施設で一旦ハード整備は完了

問 道の駅の今年度の経営状況や今後の振興計画を伺う。また、遊具公園へのトイレの設置、道の駅南側芝生広場の電源・盛り土ステージなどの設備充実について、町の方針を問う。

下八川産業振興課長
今年度の道の駅の売上は上半期約7千400万円で収支は黒字。今年度中にEV車充電設備を設置しハード整備は完了と考える。今後はソフト面の充実を財団法人と取り組む予定。公園トイレは現状を勘案し、設置しない方針に変更はない。
芝生広場は現在多用途で利用されている、ステージや電源設備の整備予定は現時点では無いが、芝生広場の活用方法とあわせて必要性について運営団体と協議する。

問 佐川高校の魅力化 町の方針と、取り組み状況は

答 来年度に向け、関係機関や県と共同で行動計画を協議する

問 高知県の高校再編計画を町としてどう捉え、どのように対応しているか問う。また、高校魅力化に向けた取り組み状況を伺う。
子ども議会の開催を再度提案する。

濵田教育長
県は平成26年の再編計画の中で、最低規模を1学年1学級20名以上で維持するとしている。
佐川高校の存続には教育の質向上による魅力化が必要。
子ども議会は町政を学ぶ機会になるが、現在は中高生会議や出前授業などを通じて中学生との交流を図り、選ばれる高校を目指している。今後の参考にさせていただく。

片岡町長
来年度にむけ地域や関係機関で共同体コンソーシアムを設置し、行動計画を協議する。県立高校再編計画の内容を注視し、県や関係自治体との連携を進め、佐川高校の存続と魅力化を支援していく。佐川高校にも存続にむけた取り組みを働きかける。

その他の質問
・猫の不妊去勢補助・捕獲への補助について
・ブラジルとの今後の交流について
・防犯灯設置補助・自治会への材料費支給事業について
・自治体情報システムの標準化・業務見直し計画について
・桜座の利用状況や人員体制について
・町内のマムシ血清の配置状況について

問 緊急用ヘリコプター離着陸場 早期の整備を

答 スピード感を持って早期に整備

田村　幸生　議員

問 佐川と加茂を中心に運用の霧生関が廃止になって二年を経過した。
早期の設置は、安心して暮らせる町づくりのために重要な課題だ。
整備の重要性の再確認と考え方や、設置計画の見通しを問う。

青空公園への離着陸

片岡町長
有事や緊急搬送など、住民の生命と安心して暮らせる町づくりのために大変重要。
可能な限りスピード感を持ち早期整備を図れるように事業を推進する。

片岡総務課長
① 未カバー地区を解消できる地理的条件
② 災害対応時に防災対応機能を高められる場所
③ 環境、整備概算事業費
①②③を総合的に考慮し検討。

問 学校給食の残食を減らす取り組みについて

答 食育・生活リズムの改善は推進する

問 子どもたちへの食育・環境教育などの命を育む教育は大切だ。
残食の発生原因や残食量について。
残食を減らす工夫や取り組みと食育・環境教育の考え方を問う。

濵田教育長
原因は、子どもの欠席分、好き嫌い・食べ慣れていない・食べる量が少ない・食べるのが遅いなど。
一方、早寝早起き朝ごはんで元気に登校し、よく学びよく運動すれば残食は出にくいと考える。
給食センターは、食べにくい豆類・キノコ、魚、海藻のメニューを人気メニューと組み合わせるなど工夫をしている。
学校では、食の細い子どもは量を減して、長時間かかる子どもは、せかさず、延長するなどをしている。
残食量は、給食を200日実施して一日当たり平均20.5kgで年間4t103kgとなり、年間一人当たり約5kgである。
食について、総合的に学ぶ食育は一層推進する必要がある。さらに、子どもの生活リズムの改善への取り組みも推進する。

おいしくいただきます

問 学校給食の残食のリサイクルへ 取り組みを

答 残食を減らす対策を強化していく

安全な食材で工夫

問 食品ロスの削減は、SDGsの開発目標になっている。
学校給食調理施設は、食品関連事業者の取り組みに準じて、食品循環資源の再利用を促進すべき施設に位置付けられている。
食品ロスの削減の推進に関する法律には、地方公共団体が食品ロスの削減のために、施策の策定や実施の責務を有すると定められている。
このことを踏まえ学校給食の残食リサイクルへの取り組みを問う。

片岡町長
給食センターは、味付けや献立を工夫し、子どもの成長において安全な食材や栄養バランスを考えている。
まずは、残食を減らす対策を強化していくことが大切。

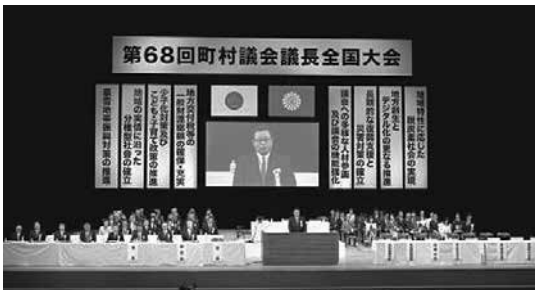
濵田教育長
学校給食の残食をたい肥として農家に提供し、収穫物を食材に活用することは、減らす取り組みに努めたうえで、目指す方向性と考える。

町村議会議長会 全国大会

11月13日、第68回町村議会議長全国大会が東京のＮＨＫホールにおいて、1千700人の議会関係者出席のもと開催され、参加して参りました。

大会では、低額な議員報酬の改善、政治分野の男女共同参画の推進、議会のデジタル化への支援など環境整備の改善を求める重点要望などが採択されました。

また令和7年度の予算編成にあたり、農業・林業・漁業の振興対策の強化や地域保健医療の向上、消防体制の強化などを国に強く要請する決議を採択しました。



第68回町村議会議長全国大会の様子

高吾北組合議会

11月29日、第4回定例会が開催されました。提出されました議案は、専決処分の報告1件、補正予算案3件で、全て全員賛成で可決されました。

小田組合長の諸般の報告の主だったものでは、もみじ荘利用者の他組合施設の移動が完了したとの報告がありました。今後は関係機関等への休止手続きを進行中であり、休止後の施設利用については仁淀川町と協議するとのことでした。介護サービス事業経営戦略について、外部のケアマネージャー病院等への聞き取りを実施し、経営改善に向けて外部から見た組合への意見・指導等を計画に組み入れること、とのことでした。

日高村佐川町学校組合議会

12月20日、第4回定例会が開催されました。教育委員の選任同意案1件、教育長の給与並びに旅費支給条例の一部を改正する条例案など条例案2件、一般会計補正予算案1件であり、いずれも賛成全員で可決されました。

表紙紹介 えびす祭り

1月10日、佐川町商工会の主催で、商売繁盛と家内安全を祈願する恒例の「えびす祭り」が行われました。

恵美須神社での神事に続き、約200名にもなる大行列により商店街を練り歩く「おなばれ」や、餅投げやバザーといった催し物も開催されました。

様々な衣装を身にまとった参列者と沿道の皆さんが一体となり、お祭りの雰囲気を味わい楽しみました。

今年は前日に降った雪の影響で参道に雪が積もり大変な部分もありましたが、多くの方々のご協力のおかげで、無事にお祭りは終わりました。

【藤原健祐議員】

当町の藤原健祐議員が町村議会議員として35年以上の永きにわたり、地方自治の発展に功績があったとして、総務大臣感謝状贈呈式にて表彰されました。

【岡村統正議員】

当町の岡村統正議員が町村議会議員として19年以上の永きにわたり、地方自治の発展に功績があったとして、四国地区町村議会議長会より自治功労者表彰として表彰されました。

議会にとりましても、両議員の功績は大変名誉なことであります。

今後、益々のご活躍をご期待申し上げます。

追跡 あれはどうなったが？

あの質問のゆくえ

佐川町に初めての図書館建設を求める‼
請願
町民4,237筆の署名が提出
2012.11.26

2012.12 月定例会　請願を継続審議とする
一般質問　署名をどうとらえたか。（森議員）

2013 年 9 月定例会　全会一致で請願を採択する。

場所や基本構想などについて新図書館整備検討委員会の協議経過に関する質問が継続した。
（森議員他多数）
新図書館・青山文庫・発明ラボの合築構想の議論も続いた。

2021年3月定例会
新図書館は、旧法務局跡町有地に単独建設を決定し、開館は2024年度とする。名称は公募する。

佐川町立図書館　さくと
木造平屋建て
延べ面積 1,131㎡
駐車場 17 台。
開架スペース・子どもスタジオ・佐川スタジオ他
現蔵書　57,000 冊
（川田文庫 12,000 冊含む）
10 万冊の蔵書を計画

どうなった

2024（R6）年12月20日に開館
名称「さくと」と命名。
総工費【約9億円】（工事費･設計費･備品費･システム含む）

あなたが選んだ議員の仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は　3月7日(金)午前9時開会予定です。傍聴においでください。オンライン配信での試行開始。

編集後記

「議会だより」の編集に携わる広報委員5名のメンバーで最後の年になりました。

議会定例会での質疑や議決、各議員の一般質問を編集していますので「固い」紙面になりがちですが読みやすく紙面改善など努めています。

各議員の一般質問は考えも現れます、その角度から見ると新たな発見があるかもしれません。

読まれる「議会だより」づくりに一層努力していきますので、ぜひ議会だよりに関するご意見をお寄せください。

山本　和輝

議会広報編集委員会

委員長　岡林　哲司
副委員長　山本　和輝
委員　橋元　陽一
委員　齋藤　光
委員　田村　幸生

※わかりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。

1. あなたの未来について

高校生作

1-1. 将来、地元に残って生活したいですか？
それとも県外で働きたいですか？

1、県内　2、地元　3、県外　4、県外就職、将来は地元に帰りたい　5、海外

※将来地元にかえりたいけど、働くところがあるのか？などの不安もありながら、
「人生で一度は都市部に出てみたい」というポジティブな意見が印象的だった。

1-2. 将来就きたい職業や目標は何ですか？
どのような仕事をしたいと思っていますか？

海外へ、看護師、パン屋、介護福祉士、スイスで花屋さん、ゲームクリエイター、
南極探検、AI 研究者、保育士、ロボット工学、通訳、自動車整備士、役場職員、政治家

※明確な目標を自分の言葉で語る高校生、その実現をサポートできる高校・地域づくりが大切だ。

2. 佐川高校の未来について

2-1. 地域マネの観点から、佐川高校をマネジメントするとして、
どう活性化できると思いますか？

・弱点克服！今は普通科だけ。生徒が少ない。など、人が来ない理由を調査する。
・部活の選択肢を増やす。　・レーザーカッターを部活で活用している。
・放課後に寄れる場所を作って欲しい。(カフェ、ゲーセン、ファーストフード店など)
・もっと佐川高校や地マネのことを知ってもらう。・制服をアピールする。

2-2. 佐川高校への入学者を増やすために、
どのような魅力化の取り組みが必要だと思いますか？

・県外や国外にいけるアピール　・地マネ以外の人も販売などしてみる
・学科を増やす　・オンリーワンの活動(地マネ)　・積極的なＳＮＳ発信

3. 地域の未来について（この問いは難しかったと思います。）

3-1. 自分が住む地域が将来どうなってほしいですか？どのような地域であってほしいと考えますか？

・欲しいもの→スタバ、公園、雑貨屋、ゲーセン、映えスポット
・人は増えてほしいけど増えすぎは嫌。　・交通の便をよくしたい(バス少ない)。

3-2. 地域に若い世代（0～34 歳）を増やすためには、どのような取り組みが必要と思いますか？

・町がやっている子育て施策をもっとアピールする。
・若い人が惹かれるようなスポット、景色や自然をもっと発信する。

4. 議員にこれを質問したい

・佐川町のメリットはなんですか？・・・A. 程よく田舎、子育てしやすい。
・政治・経済など右・左に偏らない勉強方法は？・・・
A. 右・左以外の軸と一緒に考える、色々な意見を聞いてみる。
・何で議員になったの？・・・A. 解決したい問題があった。

高知県立佐川高等学校 生徒会＆地域マネジメント部のみなさんと みらいについてのワークショップ

議会：議長と広報編集委員
学生：生徒会と地域マネジメント部
協力：佐川高等学校

※各テーブルで印象に残った言葉。

昼食に温かいごはんが食べたい。
地元のものが食べたい。

英語を学びたい。
地マネの活動でいろんな所に行きたい。

子育ては佐川でしたい。

積極的な発言の裏には地マネの活動で得た自信があった。地域と高校生、議会や行政と高校生、今後も様々な取組みで交流を図り、少子高齢化対策の糸口を探っていきたい。

帰りに寄れるところが欲しい。
カフェやファーストフード

将来的に帰ってきたいが仕事があるか不安。

将来について考えている方が多い。

ちいきでがんばる

一般社団法人 加茂の里づくり会

加茂地区では、住民が主体となり地域の魅力を再発見・発信する活動が続けられている。その中心にあるのが、「一般社団法人 加茂の里づくり会」だ。

大山 端　会長

「みんなで福祉のまちづくり 加茂部会」からスタート

平成19年に佐川町の「みんなで福祉のまちづくり」の加茂部会が発足し〝お宝発見ウォーキング〟をスタート。地域に隠された自然や歴史文化を再発見する試みとして好評を博した。

平成21年頃にウォーキングの下見中に希少植物「バイカオウレン」の群生地に出会い、地権者の協力により、地元に自生する希少植物の保護と、PRを兼ねて地域の自然の魅力発信する方向に動きだした。

組織再編と「一般社団法人」設立へ

平成26年に加茂の里づくり会が発足し、令和に入ってから、資金面や運営体制の安定化のため一般社団法人へと組織を改変した。

20名程度で始まったメンバーも、今では60人を超えるまでになった。

また「青壮年部会」と「産業部会」とを「加茂プラス」に組織再編し、子ども向けの寺子屋活動や居場所づくりにも力を入れている。

バイカオウレン花祭りの本格始動

平成28年頃からは「バイカオウレンの花祭り」を本格的に始めた。開花ピークとなる2月上旬の山道を散策するイベントは、毎年多くの観光客を呼び込むまでに成長した。

また、ガードマンの手配や駐車場整備などにも費用がかさむため、300円の参加費を集めて運営を図るようにした。

活動の課題とこれから

一方で、高齢化に伴う活動の継続の在り方と運営面で、さらに安定した財源の確保が求められている。

有償ボランティアを導入するなど、持続可能な仕組みづくりを検討する段階に来ている。

さらに、駐車場対策の一環としてJR利用者の取り込みも模索中で、「バイカオウレンの群生地まで、JR加茂駅から徒歩で20分」といった情報発信をすることで、花祭りの魅力を多様な層へ広げたい。

地域を担う人材育成と今後の展望

地域の未来を担う若者の育成にも積極的で、今年は加茂中学生に祭りのポスター作りを依頼した。また、新たな企画やアイデアを求めて大学との連携も検討中である。

→中学生がデザインした素敵なポスターたち（一部紹介）

バイカオウレン全期　1月25日～3月2日まで
バイカオウレン花まつり　入場料300円
2月8日（土）～2月16日（日）9時～16時
会場：集落活動センター　加茂の里

「少しでも地域に貢献したい」「加茂地区の自然や文化を知りたい」「人と人のつながりに興味がある」という思いのある方は大歓迎。

【問い合わせ】
加茂の里
20-9302

あなたの周りで、佐川町の元気のためにがんばっている【組織やグループ】をぜひ紹介下さい。

□発行／佐川町議会　□発行責任者／議長 松浦 隆起　□編集／議会広報編集委員会
□〒789-1292 高知県高岡郡佐川町甲1650-2　□TEL (0889)22-7702　□FAX (0889)22-7385